

「ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン(案)」に関する パブリック・コメント募集の結果

1 募集期間

平成 30 年 11 月 26 日(月) ~ 12 月 21 日(金) の 26 日間
勝山市については、平成 30 年 12 月 3 日(月) ~ 12 月 26 日(水)

2 提出先

圏域内の全 11 市町

3 募集結果の概況

(1) 意見の市町別提出者数及び件数

市町名	提出者数	件数
福井市	2 人	13 件
大野市	3 人	6 件
鯖江市	3 人	4 件
坂井市	1 人	4 件
永平寺町	12 人	28 件
越前町	1 人	1 件
計	22 人	56 件

(2) 意見の項目別件数

意見の項目	件数
ビジョン全体に対する意見	9 件
都市圏の概況に対する意見	2 件
都市圏の将来像に対する意見	2 件
具体的取組に対する意見	43 件
計	56 件

ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン(案)に対する意見とそれに対する圏域の考え方

対応分類	件数
A: ビジョンに反映する	1件
B: 今後の参考とする	40件
C: 圏域の考え方を説明する	11件
D: その他要望・意見等	4件
計	56件

1. ビジョン全体に対する意見

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
1	現在でも事務量が多く、職員の残業時間も多いのではないかと危惧される中、また、財政難の折、職員数も減少していく中、果たして増える事務量に対応できるのかという不安を覚える。 しっかりと精査し、少しでも不要な従来の取り組みは廃止し、事務量が増えないように努め、どうしても増えるなら適切な職員数を確保されたうえで、着実に機能し、成果を生み出す組織体制にしてほしい。	B	ビジョン(案)に掲載しております取組は、すべてが新規のものではなく、既存事業を拡充したものや、また、スケールメリットを活かしたり様式を統一化したり共同で広報したりすることにより、事務の効率化を図る、といった取組も含まれております。 一方で、いただいたご意見につきましては、課題として認識しており、当該意見に配慮しながら取組を推進していきます。
2	国連が制定したSDGs(持続可能な発展目標:大きく17の柱から成る)に沿った社会経済改革に取り組みながら、一人ひとりが幸せを実感できるふくい連携都市圏の実現を目指すということが求められる。 ビジョンの中にも、「持続的な」という表現が何か所か記載されている。はっきりと「SDGsを踏まえての持続的な」という記載をしてほしい。	C	SDGsに掲げる目標は、圏域の持続的な発展において重要であると考えております。 当該目標を考慮しながら、持続可能な社会の実現に向けて、取組を推進していきますが、ビジョンへの記載までは考えておりません。
3	定住人口・交流人口を増やすためにも、個性の感じられる各市町のアイデンティティの確立と明示してほしい。 地方創生に向けた自治体間の競争が激化する中、それに打ち勝つためには、個性の感じられる市町をそれぞれが目指すべきである。 地元経済を活性化するためには、大都市のような機能強化を目指すのではなく、可能な限り地産地消や地場産業を大切にする自主自立型の個性的なローカル経済の確立を目指す方向に舵を切ってほしい。地元の文化、伝統を生かし、地場産業や伝統産業などを活かし、個性あふれる世界でオンリーワンの中枢都市圏を目指してほしい。	B	いただいたご意見を参考にし、各市町の個性と魅力を磨き高め、それぞれの地域資源に新たな「つながり」を生み出すことによって、本圏域としての独自性を発揮していきます。
4	東京一極集中の打開策として考えられた構想なのか。	C	連携中枢都市圏構想の目的とは、人口減少・少子高齢社会にあっても、地域経済を持続可能なものとし、地域住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようになるため、中心都市が近隣市町と連携し、各種の取組を行うことにより、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成すること、とされております。
5	色々欲張りすぎではないか。 経済成長は必要なのか(どこまで可能か。) 目新しさがない(目新しさが必要か、との意見も)ではないか。 「つながる」はあっても、「まとまる」がないのではないか。	B	都市圏は、圏域が持つ豊かな地域資源を活用することにより、経済基盤の強化を図り、圏域全体の経済成長をけん引するという役割などを果たすこと、とされております。 公的部門だけでは限界もありますが、いただいたご意見を参考にし、経済成長につながるよう取組を推進していきます。
6	少子高齢化による人口減や労働人口の減による財政難が進んでいく中、圏域単位で行政を行っていく流れは、ある程度はやむを得ないと思う。 しかし、東京への一極集中が問題になっている中、福井市に人口やインフラが集中し、地方の中枢都市への一極集中が問題となっていくことが心配である。 東京への一極集中の是正に力を入れているのなら、地方においても、財政とのバランスをとりながら可能な限り中枢都市から周辺自治体への機能や人口の分散を進めて、多少不便であっても心豊かな市町づくりを進めることにより力を入れることを記載するべきではないか。	C	連携中枢都市圏制度は、各市町が連携して事業に取り組み相乗効果を生み出すなど、圏域全体の魅力を高めることにより、大都市圏への人口流出を食い止め、持続可能な地域圏域を形成するために設けられた制度です。 一方で、いただいたご意見につきましては、課題として認識しており、当該意見に配慮しながら取組を推進していきますが、ビジョンへの記載までは考えておりません。
7	永平寺町にとってどんなメリットがあるのか。	C	メリットとしては、 ・多様な資源の活用に連携して取り組むことにより、単独事業との間に相乗効果が生まれる、 ・住民ニーズが多様化し、地域課題が複雑化している中、共通の課題に効率的に対応できる、 ・特別交付税の財政措置が受けられる、 ことなどが挙げられます。

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
8	県大周辺(五領地区)は、永平寺町(松岡)からも切り離されている感じがする。	B	産学官民により構成する協議会の設立を予定しており、その中で大学等からの提案や意見についても幅広く伺うことになっております。いただいたご意見に配慮しながら、取組を推進していきます。
9	このようなビジョンが進められていることを私の周りで知っている人はいないように思われるので、今後、より多くの住民に知ってもらえるように広報に力を入れてほしい。	B	いただいたご意見を参考にして、あらゆる機会を捉えて効果的な周知、広報に努めてまいります。

2. 都市圏の概況に対する意見

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
1	スポーツ施設にスキー場は入れないのか。大野も勝山もスキー場を持っているので、入れるといい。	C	ビジョン(案)に掲載している「スポーツ施設」は、市町ホームページの施設一覧を参考資料としております。ご指摘のスキー場は市所有ではないため当該施設一覧には掲載されておらず、本ビジョンにおいても同様の取扱いとさせていただきます。
2	ビジョンの第2章の2産業の各項目(P13、P14、P15、P17、P19、P21、P23)で記載されている期間(ex. ...1995年(平成7年)から2015年(平成27年)までの20年間で...)の表示が間違っている。(正しくは21年間)ため、「...〇〇〇〇年(平成〇年)から〇〇〇〇年(平成〇〇年)の間に...」と修正してはどうか。	C	各項目の数値に係る経過年数としては、ビジョンの表示で問題ないと考えております。

3. 都市圏の将来像に対する意見

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
1	「持続可能な発展を創造する ~ 真の幸せが実感できる ふくい嶺北都市圏～」などというコンセプトはどうか。福井県はこのところ幸福No1の県とか言われているが、市民一人ひとりが本当にそれを実感できているかははなはだ疑問である。実感できるためには、心の豊かさも含めて真に幸せが実感できる社会経済を構築することが、これからまさに求められるのではないのか。	C	「住民一人ひとりが真の幸せを実感」できるようにすることは、重要であると考えております。心の豊かさも含めて真に幸せが実感できる社会経済を構築していけるよう、取組を推進していきますが、コンセプトの変更までは考えておりません。
2	ビジョン第3章P44の「戦略 圏域全体の経済成長のけん引」の文中3行目の「人出不足」は「人手不足」の方が一般的なのではないのか。また、同7行目の「...充実した交通網等を十分に活用し...」の表現は、市民感覚として妥当なのか。	A	前段の指摘箇所については修正します。後段の指摘箇所については、中心拠点のエリアを想定した表現になっております。

4. 具体的取組に対する意見

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
1	ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョンは一般的なおさなりの取組としかみえない。 パラまきの事業施策でなく、抜本的な改革、荒療治が必要と考える。 (案1)政府関係機関や、大企業本社、大学等の地方移転 (案2)道州制の導入等？ を	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
2	政策全体的には、標準的な中身となっていて、それなりの内容であると考えられるが、市・町との連携による政策の具体的な文言が足りないように感じる。 事業費が、年度別の変動がないのは、どういうことなのか、目標値がないのか。	B	ビジョンは取組期間中でも柔軟に変更することは可能ですので、今後各市町間の協議を踏まえ、より具体的かつ充実したものにしていきたいと考えております。
3	「繊維産業販路拡大支援」については、北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業を見通して、ターゲットを首都圏としているようだが、首都圏だけでなく、中部縦貫自動車道の県内全線開通がこの取組期間内に見込まれていることを考え、中京圏をターゲットに加える必要があるのではないのか。	B	いただいたご意見を参考にして、中京圏も含めた他の地域についても今後検討します。

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
4	「特産品販路開拓・拡大」については、北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業を見通して、ターゲットを首都圏としているようだが、首都圏だけでなく、中部縦貫自動車道の県内全線開通がこの取組期間内に見込まれていることを考え、中京圏をターゲットに加える必要があるのではないか。	B	いただいたご意見を参考にして、中京圏も含めた他の地域についても今後検討します。
5	「農林水産物特産品販路拡大」については、北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業を見通して、ターゲットを首都圏としているようだが、首都圏だけでなく、中部縦貫自動車道の県内全線開通がこの取組期間内に見込まれていることを考え、中京圏をターゲットに加える必要があるのではないか。	B	安定市場である中京圏等へのアプローチも重要であると考えております。いただいたご意見を参考にして、中部縦貫自動車道の全線開通も見据えつつ、中京圏も含めた他の地域についても今後検討します。
6	インバウンドの増加による観光振興についてであるが、SNSをフルに活用した、生きたリアルタイムの個性のある人間味が感じられる情報提供が最も効果がある。それと併せて、やはり宿泊施設の整備である。外国人に喜ばれる施設、日本的なおもてなしや日本的な体験もできる宿泊施設、オーナーとも心から触れ合えるゲストハウスなども好まれる。そうした施設を市町が連携し、空き家や空き校舎などを活用して整備すべきである。話題性のある宿泊施設、旅行コース、日本の田舎生活体験などをもっと掘り起こして、整備してほしい。	B	いただいたご意見を参考にして、SNSを活用した情報発信や、既存のゲストハウスや農家民泊といった特色ある宿泊施設や体験型観光素材の更なるPRなど、圏域全体への誘客拡大に連携して取り組みます。
7	地域の新しい観光名所をつくる取組をすることによりリピーターの観光客を増やすことができる。まさにその取組が、地域の活性化や地域おこしにつながる。広域観光周遊ルートとして私が考えるのは、きれいな越前海岸と東尋坊をセットとして越前町、南越前町をめぐるお手軽日帰りルートと宿泊ルートである。越前海岸をあちこち途中下車し、水仙畑や呼鳥門、越前岬台を散策しながら洒落たカフェで休憩。今度は地域を走るコミュニティバスを利用して移動、福井駅に路線バスを利用して戻ることが出来る周遊ルートをつくといい。また、リピーター向けとして越前海岸の旅館に宿泊して、コミュニティバスを乗り継ぎながら海岸の名所を散策するのもいい。	B	「広域観光周遊ルート形成」において、越前海岸と東尋坊を組み合わせたコースを設定することは可能であると考えておりますので、いただいたご意見を参考にして、連携事業として検討していきます。
8	外国人観光客受け入れ環境整備として、越前海岸の福井市と南越前町に廃墟となって点在するホテルをリフォームして安く長期滞在してもらえシステムを構築してほしい。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
9	滞在型の観光地がない(温泉以外あるのか。)。恐竜博物館は観光の目玉ではないのか。恐竜博物館へのアクセスの改善が必要ではないか。お金が落ちる観光地がない(一乗谷とか何も無い。)のではないか。海の観光資源(海水浴場や越前海岸など)の活用はしないのか。	B	恐竜博物館につきましては、恐竜セット券(えち鉄乗り放題+勝山市内バス乗り放題+恐竜博物館入館料)の販売といった特色ある取組を既に行っているため、今後この点をしっかりと訴求していきます。海の観光資源につきましては、従来より重要視しており、今後もより一層夏の海水浴や冬の越前がに等のPRに努めていきます。その他いただいたご意見につきましても、今後の参考とし、滞在時間の延長や観光消費額の拡大に結びつくよう取組を推進していきます。
10	福井駅前開発についてであるが、機能的に地下でつなげることで駅前利便性が上がり市民がよく集まる魅力的な活気ある福井県玄関口の福井駅前になる。地下道を有機的につなぐことで、悪天候の時でも駅前地下駐車場に車を停めてショッピングをしたり、悪天候時駅から路線バスや福武線に乗り換えるのも快適にできるようになる。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
11	広域的公共交通網の整備と効率的なモビリティの実現については、ビジョンにも書かれているが、大変重要である。道路網の整備とともに、効率よく、だれもが利用できる広域公共交通網の整備、そして新たな交通手段による住民のモビリティの確保(カーシェアリング、相乗りタクシー、自動運転タクシーなど)、それをSDGsの視点から考えることが大切である。高齢社会がさらに進む中、また、インバウンドを含めて、観光客の入込数の増加を図るためにも、広域的な公共交通網は、今後整備される北陸新幹線、中部縦貫自動車道とともに戦略的な整備が必要である。	B	いただいたご意見を参考にして、高齢者の移動手段の確保、圏域内外から通勤・通学・観光等で訪れる人々の利便性向上など、広域的公共交通網の構築に連携して取り組みます。

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
12	今後、さらに高齢化が進み自動車を運転できなくなる方々の自立を促すために各地域のコミュニティバス路線の有機的なつながりが必要である。 関東から来る観光客をとりこみ、流入人口をうまく各観光地に送り出す主要路線をつくり、その枝として地域のコミュニティバス路線とつなぐことにより、郊外に住んでいる方々も地域の足として利用できる。	B	コミュニティバスの市町間相互乗り入れに向けて、各市町のコミュニティバスの実態調査・研究を行う予定をしております。 いただいたご意見を参考にして、二次交通の機能強化に連携して取り組みます。
13	コンパクトなコミュニティバスの便数を増やし、乗車運賃を安くすることができれば、地域の足として高齢者の方も利用でき、福井の街中まで気軽に足を運ぶことができる。また、反対に街中の方も気軽に越前海岸に足を運ぶことができきれいな越前海岸をトレッキングして健康体を維持することができる。 地域の足として根付かせるため、バス運賃を安く設定し差額を県や市の補助金で充当するよう検討してほしい。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
14	公共交通網が福井駅起点で整備されているので(されるので)、県大生には使いづらい。 (県大の)下宿生でも車がなければ生活できない環境はどうにかならないのか。 (県大・永平寺町から)県立図書館、博物館等へのアクセスを改善できないか。車で移動するにしても面倒(駐車場の問題、8号線の混雑の問題等)である。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
15	病児保育環境整備についてだが、圏域内の市町で、利用しやすく費用など平等になるよう検討してほしい。 また、圏域内の住民にホームページなどでわかりやすく周知してほしい。	B	圏域内の利用料については統一されております。 周知につきましては、いただいたご意見を参考にして、各市町のホームページで圏域全体の施設情報を閲覧可能にするなど、効果的な周知、広報に努めてまいります。
16	愛育病院では、平成30年10月から利用人数の増加や施設のスペースの関係上、入所人数の制限ができたようだ。需要が増えてきているのと、利用する側が希望をしても必ず預かってもらえるという訳ではないようだ。 今後、永平寺町内の子育て世代の方のニーズとしては、安心して子どもを預け仕事に行けるために病児・病後児保育の増設、また預けやすい施設となると当町内にあってほしいという意見が増えていくと思う。	C	永平寺町におきましては、施設の確保、看護師・保育士等の配置が難しいため、病児保育施設を開設するのは困難であると考えております。
17	病児保育環境整備についてだが、保護者・祖父母も働いている方が多くなかなか休めないようだ。また、未満児の方が熱や感染症にかかりやすく、当園には利用している園児もいるので、連携の取組の中であってよいと思う。	D	
18	病児保育環境整備についてだが、仕事が休めずまた、核家族のため子どもを療育する人がいなくて困った時に、病児保育を利用できることは良いと思う。 何日も休みがとれず、病児保育を利用することで職場に影響を及ぼすことがないため、大変助かる。	D	
19	病児保育をするにあたり、朝受診しないといけないため仕事を遅刻していかないといけないため不便であるので、永平寺町内にも病児保育できる施設があると良いと思う。	C	永平寺町におきましては、施設の確保、看護師・保育士等の配置が難しいため、病児保育施設を開設するのは困難であると考えております。
20	永平寺町には病児保育の受け皿がないので、圏域内で受け入れてもらえる利用できる病院も多くなり便利になると思う。 さらに、圏域内の手続きがわかりやすく統一されているとより利用しやすくなると思う。 また、受け入れてもらえる病院の利用状況が、リアルタイムでわかると病院の選択もしやすくなるのではないかと。同時に予約もできると良いのではないかと。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
21	病児保育環境整備についてだが、ホームページ等で病児保育を開設している施設の情報を見ることができ、なおかつ「空き状況」や「利用申し込み」も出来るよう7市4町でネットワークを構築し、住民に利用しやすい分かりやすい環境を整備してほしい。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
22	病児保育環境整備についてだが、実際には、病児保育を利用される方が限られているので、病児保育を行っている病院の紹介、病児保育のシステム・料金など、住民を含め園児の保護者にチラシ配布、ポスターなど更なる周知をしてほしい。	B	いただいたご意見を参考にして、利用促進につながるよう効果的な周知、広報に努めてまいります。
23	永平寺町からは愛育病院を利用されている方が多いが、近隣区域に受け入れ可能な病院が増え、より利用しやすくなるとよい。	B	いただいたご意見を参考にして、更なるサービス向上につながるよう取組を推進していきます。
24	病児保育環境整備についてだが、園では流行性の病気であるときは、最低必ず定められた期間は休んでもらっている。親が仕事を持っているときはなかなか休めず、また近くに見てもらえる人がいないとき、とても困るようである。 今のところ永平寺町では病児保育している病院がないのでせめて1ヵ所ぐらいは必要だと思う。	C	永平寺町におきましては、施設の確保、看護師・保育士等の配置が難しいため、病児保育施設を開設するのは困難であると考えております。
25	保護者が在住する市町以外に勤務する場合は、勤務地に近い園に入園させたり、病児・病後児を受け入れてくれる病院の方が都合の良い場合がある。 子育てをする上で、勤務(転職、勤務時間、勤務場所など)のことを考慮しなくてもいい環境が整っていると、子育てしやすいと感じる。	B	いただいたご意見を参考にして、更なるサービス向上につながるよう取組を推進していきます。
26	保育所等広域入所についてだが、圏域内の保育(給食も含めて)、教育、子育て支援、園の規模や職員配置が平等になるように、事業について企画・運営をしっかりと考え、連絡調整しながら、密に連携してほしい。また、保育や子育て支援に必要なサービスを厳選しながらもサービスが低下しないように検討してほしい。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
27	保育所等広域入所についてだが、当園には広域入所の園児が3歳児にいます。来年も継続なので、連携の取組の中にあってよいと思う。	D	
28	保育所等広域入所についてだが、他の市町からでも子どもを受け入れてくれる制度であるため、安心して仕事をする事ができる。	D	
29	保育所等広域入所についてだが、共働き家庭で職場が町外の場合は職場に近い園に預けたい気持ちはあると思う。 圏域内は手続きの簡略化をするなどして利用者の利便性をはかるとよいのではないかと。	B	いただいたご意見を参考にして、更なる利便性向上につながるよう取組を推進していきます。
30	保育所等広域入所についてだが、保育時間が7:00～19:00の町内の園は、町内在住の子どもたちで定員を満たしているクラスが多い。そこで、町外から永平寺町に広域希望を出しても、入園できる園は限られてしまうのではないかと懸念される。	B	基本的には当該市町の住民が優先されるため、希望通りに入園できないことも想定されます。しかしながら、クラスによっては入園可能な場合もあるため、いただいたご意見を参考にして、圏域内での情報共有を図りつつ、更なるサービス向上につながるよう取組を推進していきます。
31	広域入所に関しては、全く知らない保護者が多いと思うので、情報の提供の仕方を工夫する必要があると思う。	B	いただいたご意見を参考にして、更なるサービス向上につながるよう効果的な周知、広報に努めてまいります。
32	永平寺町の特に松岡地区では未満児はどの園も一杯な状態なので、親のニーズに合わせて広域入所ができるといいと思う。 永平寺町は保育料が他の市町に比べて安いのが、広域入所の際の保育料はどうなるのか。	B	いただいたご意見を参考にして、更なるサービス向上につながるよう取組を推進していきます。 また、保育料につきましては、広域利用の場合であっても居住市町のもので適用されます。
33	子育て支援センターを利用しやすいようにするために、永平寺町内に屋内での遊技場があれば考える。遊びに来たところから、町の子育ての状況を感じられたいいのではないかと。ソフト面が充実するだけでなく、ハード面で必要なものからつながるものもあるのではないかと。 (例1)芝政...キッズルームの中でも大型積み木を迷路のようにしてある (例2)ときなる...木のおもちゃルーム ここから支援センター、保健センター、子育て支援課などにスムーズにつながるようになると子育てでも安心だと思う。	B	永平寺町におきましては、広いスペースの確保などが難しいため、ハード面での整備は困難であると考えております。しかしながら、子育て支援センターと保健センター、子育て支援課との連携は重要であると考えており、いただいたご意見を参考にして、保健師や保育士が定期的に巡回し情報共有を図るなど、更なるサービス向上につながるよう取組を推進していきます。

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
34	ビジョン第4章P81の「地域振興の成果指標として目標(H35)100人を掲げているが、「女性・若者等就職支援」事業中の「圏域内への移住促進や...就労促進に連携して取り組む」ことの目標であれば、後述の「圏域内外の住民との交流・移住促進の中の「U・Iターン者数」と類似の目標(H35)725人に含めてはどうか、「セミナー」や「出張相談会」等の事業成果として、「就職件数」を掲げることは事業費対効果の点からも曖昧さが残る。	C	「女性・若者等就職支援」の主たる目的は、女性や若者等の就労を促進することにより圏域内企業の労働力確保を図ることにありますので、この成果については当該事業による就業者数を把握し、事業内容の妥当性の検証等に役立てたいと考えております。なお、副次的な効果として圏域内への移住促進も期待しておりますので、この効果はご提案の「U・Iターン者数」の中で把握していきます。
35	地域振興事業としては、少子化対策としての女性・若者等就職支援事業だけでなく、急激な増加が見込まれる高齢者の就業促進の方がより緊要度や重要性が高いものと考えられる。このため、生き生きと活躍できる「高齢者の就業支援」を地域活性化策の一つとして、国の雇用延長や就業促進制度の他に、連携中枢都市独自のインセンティブ策を追加してはどうか。さらに、障害者の就業支援も同様に重要である。	B	いただいたご意見を参考にして、高齢者活用に係るセミナー開催や高齢者の継続雇用・採用に積極的な企業に対する支援など、高齢者の就職支援に連携して取り組みます。また、障がい者の職業的自立につながるよう、就職や職場定着などの支援に取り組みます。
36	構想の目的にもあるように、地域経済の維持のため、若者の働く場所の確保が重要と思う。若者向けの就職支援にあたっては、連携中枢都市圏の「ふくい」という名称が前に出て、福井市のみが手厚くならないようにお願いしたい。嶺北の魅力を活かし圏域全体で雇用の拡大を図ってほしい。	B	いただいたご意見に配慮しながら、地元企業の魅力をPRするなど、連携して就職支援を行っていきます。
37	構想の目的にもあるように、地域経済の維持のため、若者の働く場所の確保が重要と思う。企業誘致にあたっては、連携中枢都市圏の「ふくい」という名称が前に出て、福井市のみが手厚くならないようにお願いしたい。嶺北の魅力を活かし圏域全体で雇用の拡大を図ってほしい。	B	いただいたご意見に配慮しながら、圏域全体での雇用拡大につながるよう取組を推進していきます。
38	道路、橋、トンネル、水道管、ガス管、公共施設などの整備・敷設から数十年が経過し、いずれの公共インフラも老朽化し、更新の必要に迫られている。更新のためには莫大な費用がかかるため、これをどのようにするかはどの市町にとって大きな問題である。市町間で連携して更新対象の優先順位をつけ、安全・安心な公共インフラの更新を着実に図ってほしい。	B	施設の更新は、設置自治体に意思決定の権限があるとともに、当該自治体のまちづくりにも影響を及ぼすため、更新にあたっては各市町の責任において優先順位を付けるべきと考えております。一方で、いただいたご意見につきましては、課題として認識しており、施設更新や再編問題を圏域全体で捉えたファシリティマネジメント研修により資質向上を図るなど、公共施設のあり方を連携して研究していきます。
39	地域間の役割分担の明確化が必要で、各市町それぞれがすべての施設整備を行う必要があるか議論が必要である。中心拠点の福井市において整備する施設等の整備方針をまず示し、周辺自治体においては、同様もしくは類似機能を持つ施設を自治体単独で整備する場合、建設に対する費用を一部負担して完成後の利用料金を福井市と同額で利用する場合、民間資金による建設と連携都市圏による運営、などの選択肢と費用負担のあり方などの情報を住民に開示し、意見を反映するといったプロセスを明記するといった取組をしてほしい。また、公共施設再編計画などと連動させた情報開示、その前提での周辺自治体での必要なインフラ整備などを見極めていく必要がある。	B	現段階において、広域的に施設を整備することは困難であると考えております。まずは、各市町の既存の公共施設やその利用実態、財政負担、課題等の情報を把握・共有し、状況に応じて共同利用や共同の維持管理等を研究し、いただいたご意見につきましても、今後の参考とします。
40	都市圏住民の地方移住(働き世代の)に対する補助施策を実施してほしい。移住者が自立できる環境を整備してほしい。	B	現在、国において支援金の支給等が検討されているところであり、それらの動向を踏まえつつ、いただいたご意見も参考にして、移住受入れや自立支援に連携して取り組みます。
41	移住してきた職はあるのか。移住してきた人を地域社会が受け入れられる(受け入れている)のか。福井の住みよさは、昔から福井に住んでいる人にとっての話で、移住者に住みやすいかどうかは別である。	B	いただいたご意見を参考にして、移住受入れや自立支援に連携して取り組みます。
42	現在の職員の意識改革と戦略的、創造的政策形成能力と実行力を伴った人材育成はもちろんだが、一方で圏外特に県内外から産官学民を問わず(中央省庁や大学、民間企業などから)、有能な人材をU・Iターンなどで確保する仕組みづくりと働きかけをして、地方創生を真に動かす強力なエンジンとなる人材確保に尽力してほしい。	B	いただいたご意見を参考にして、各市町間で情報交換等を行うなど、都市圏からの人材誘致に連携して取り組みます。
43	各市町の市民レベルの取組を吸い上げ、行政として7市4町民に広報し、賛同を呼びかけ、各市町を拠点に活動してもらおう。その活動資金の一部をまかなうため、クラウドファンディング型ふるさと納税などによる資金調達・支援の仕組みを共同で構築してほしい。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。